

令和 6 年 6 月 2 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00353

研究課題名(和文) 近世後期京都の芭蕉顕彰俳諧の研究

研究課題名(英文) Study of Basho honoring materials in the late modern Kyoto Haidan

研究代表者

竹内 千代子 (Takeuchi, Chiyoko)

立命館大学・文学部・非常勤講師

研究者番号：00330382

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：近世後期京都俳壇は、芭蕉の俳諧理念の追究と芭蕉顕彰の具体的な事業とが両輪のごとくに進んでいく。本研究では、消失の危ぶまれる個人蔵の資料や閲覧困難な資料を中心に収集、考察、WEB公開を行った。

まず、芭蕉が京都に滞在した落柿舎は、芭蕉没後まもなく喪失した。これを再興した井上重厚の事業をまとめ、考察した。次に、芭蕉俳諧の理念を広める活動として、洛東に芭蕉堂を開き全国の俳人を巻き込んでいく「花供養」会の資料をまとめ、考察した。さらに、京都俳諧の周辺資料である淀藩士連中による芭蕉顕彰俳諧の資料の収集と考察、石清水八幡宮をテーマとした漢詩、和歌、連歌俳諧のコラボ作品を読み解くなど多角的な考察を加えた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近世後期の俳諧は芭蕉顕彰を軸として展開する。芭蕉俳諧の理念の追究と顕彰事業の両輪によって進んでいく。この様相を概観する資料が『花供養』である。これは、京都に限らず全国に波及するので地域的にも重要である。さらには天明六年以降の近世後期をカバーするので、近世後期の俳諧研究が遅れている現状を補う学術的意義は大きい。また、これらに関する保存と閲覧の難しい個人蔵の資料も併せて収集、考察、WEB公開することによって、広く認知される社会的意義も大きいと考えている。本研究では、近世後期の芭蕉顕彰の受容を考察する中で、芭蕉堂の建立、芭蕉句碑の建立、落柿舎の再興など、芭蕉の偶像化の重要性が注目された。

研究成果の概要(英文)：A haiku group in Kyoto in the late Edo period conducted research on Basho's haiku and a project to honor him. In this study, we focused on materials that individuals have or have difficulty viewing. Then, I published it on the web.

First, Rakushisha, where Basho stayed in Kyoto, was lost soon after Basho's death. Jyuko Inoue revived Rakushisha. I considered his business. Next, Bashodo in Rakuto, which popularized Basho's haiku, published "Hana Kuyo" with the participation of haiku poets from all over the country. I have considered this material. Furthermore, I examined materials on Basho's haiku written by retainers of the Yodo domain in Kyoto. I also read a haiku poem about Iwashimizu Hachimangu Shrine.

研究分野：俳諧

キーワード：俳諧 松尾芭蕉 近世後期京都俳壇 芭蕉顕彰俳諧 花供養 日本文学 日本近世文学

## 1. 研究開始当初の背景

近世後期京都俳壇は、芭蕉の俳諧理念の追究と芭蕉顕彰の具体的な事業活動との二つがある。この二つは重層的に展開していくが、芭蕉顕彰俳諧の資料については、2017年度から交付された科研費〔基盤研究(C)課題番号 17K02474「近世後期京都俳壇における芭蕉顕彰資料の収集と研究」〕によって、収集が加速的に進んだ。芭蕉顕彰が全国に波及していく様相については、『芭蕉堂門人録』、芭蕉堂歴世の俳諧資料をまとめ、WEB公開している。芭蕉堂は後継者がいるものの俳人ではなく、住居を異にするため俳諧資料の保存は喫緊の課題の一つである。また、『花供養』の各年の俳人分布地図を作成し視覚化する取組み等をはじめている。版本『花供養』は五四種類が確認されるが、これらの異本を含めての収集は把握しきれていない。一冊毎に調査する必要があり道半ばである。周辺資料としては、所蔵者の高齢化に伴う散逸の恐れがある堀家文書の『秦夫草』や『古巢発句集』、『古巢俳諧集』をまとめ、WEB公開している。

このなかで本研究における重点的課題は、花供養会に関する資料の収集と考察である。花供養会の実態の解明、『花供養』の解読と考察、それらに關与する俳諧師と俳諧の大衆化によって急増した全国の俳人の様相の考察が重要課題となる。また、京都ならではの公家の二条家を拠点とする二条家俳諧は、芭蕉堂と二条家俳諧との宗匠を兼ねることがあり、京都における芭蕉顕彰俳諧の一性格ともなっていることが注目される。さらには、俳諧資料が個人蔵のことがあり、所蔵者の高齢化に伴い散逸の可能性も高く、いまだ喫緊の課題の一つとして継続している。その一つに淀藩士連中の末裔の畑忠良家文書がある。同資料は、淀藩士独自の活動と芭蕉堂、俳仙堂など京都俳壇と交わる活動とがあり、しかも芭蕉顕彰俳諧の一端を担うのである。その俳諧収集と公開により、近世後期京都俳壇の様相が考察できる好資料である。

芭蕉顕彰の具体的な事業活動の一つとして、洛西嵯峨の落柿舎の再興がある。芭蕉が京都に滞在して『嵯峨日記』を記した、向井去来の別邸であるが、芭蕉没後まもなく喪失している。これを約80年後に再興したのが井上重厚である。重厚は公家に出仕しているが、再興に当たって公家の後援を得、後継者に同じく公家に出仕する俳士を選定している。現在まで継続する落柿舎の礎を築いたといえよう。この重厚についての俳諧活動をまとめ、考察することによって芭蕉顕彰俳諧の一端が知られると推察される。これまで重厚については、段階的に研究を進めているが、師である五升庵蝶夢の書簡資料の公刊が遅延している。蝶夢書簡集は、田中道雄先生を中心に本研究開始当初は進行中である。このため、最終的な論稿をまとめるに至っていないが、蝶夢書簡の公刊によって研究が進むことは必至である。また、重厚の奥羽行は彼にとって芭蕉を俳諧の中心に据える覚悟に至る重要な行脚である。この後、義仲寺に入り生涯を全うするが、芭蕉に従った俳諧人生は注目に値する。

## 2. 研究の目的

本研究は、研究代表者がこれまで行ってきた近世後期京都俳壇における芭蕉顕彰資料の収集をもとに、京都東山芭蕉堂の花供養会を中心とした芭蕉顕彰俳諧が京都から全国に広がっていく様相を考察することを目的とする。2017年度から交付された科研費〔基盤研究(C)課題番号 17K02474「近世後期京都俳壇における芭蕉顕彰資料の収集と研究」〕によって、資料の収集が加速的に進んだ。これを基にして本研究では、資料の収集を継続的に進めるとともに、芭蕉顕彰俳諧の考察を進め、それが全国に波及していく様相を考察する。

全国に波及していく様相については、『花供養』の各年の俳人分布地図を作成して視覚化する取組みを始めている。『花供養』本文の収集と解読も並行して行う。『花供養』の版本は年刊の五四冊であるが、異本を含めると全体はいまだ調査継続中のため、同年に付き二、三冊の異本について校異し、公開することとする。これに加えて京都ならではの公家の二条家を拠点とする二条家俳諧が後押しをする状況を考察する。しかも、芭蕉堂、さらには俳仙堂と二条家俳諧との宗匠は兼ねることがあり、京都における芭蕉顕彰俳諧の一性格ともなっている。また、芭蕉顕彰の具体的な事業活動の一つとして、洛西嵯峨の落柿舎の再興がある。芭蕉没後まもなく喪失しているが、これを約80年後に再興したのが井上重厚である。重厚は再興に当たって公家の後援を得、後継者に同じく公家に出仕する俳士を選定している。現在まで継続する落柿舎の礎を築いた重厚についての俳諧活動をまとめ、考察する。さらに、京都における芭蕉顕彰の事業は、墨直し会と俳仙堂がある。墨直し会は、洛東双林寺の仮名碑に墨を入れ直すもので、芭蕉の弟子の各務支考によってはじめられた芭蕉追善のモニュメントである。美濃派の連中によって運営されたため排他的な性格が強いが、一時期は京都の俳人である五升庵蝶夢によって運営された。彼は芭蕉の俳諧理念を追求するため、芭蕉の発句や子弟による芭蕉の言行録とも言える俳書を刊行しているが、学研的な性格のものである。俳仙堂は、西村定雅が、石川丈山の詩仙堂、木下長嘯子の歌仙堂に倣ったもので、京都に根付いている。また、芭蕉堂との関係も深く、芭蕉顕彰資料として注目されるが、これらに関する先行研究は十分とは言えず、本研究で補うことが必要であると考えている。

そして、その他の周辺の俳諧資料の収集と考察は継続的に行い、WEB公開する。個人の蔵書については、所蔵者の高齢化が進み、散逸の恐れがある状況は続いている。喫緊の課題の一つである。

### 3. 研究の方法

次の三点を軸に研究を進める。

#### (1) 近世後期京都俳壇における芭蕉顕彰俳諧資料のまとめと考察

落柿舎を再興し義仲寺を看主した重厚の年譜と発句をまとめ、重厚の奥羽行によって落柿舎の存在意義と芭蕉俳諧の影響を考察する。また、淀藩士連中と芭蕉顕彰俳諧を考察する。淀藩士の資料は、末裔の畑忠良氏の所蔵で閲覧の難しい資料であり、今後の保存が課題となっている。本研究では、写真撮影を行い、一部はWEB公開をしたいと考えている。さらに、墨直し会、俳仙堂の資料を収集し、考察を行う。俳仙堂の堂主は、資料が少なく未詳の部分が多いが、凡そ年代順に一覧すると、次のとおりである。朝陽は芭蕉堂主でもあり、蔦雨、岱美も芭蕉堂の常連である。

1	西村定雅	年刊句集『真葛春懐紙』刊。
2	灌園蕪骨	勝摺の刊行。
3	北村朝陽	知事 西邨春躬。
4	三津川蔦雨	天保9年10月9日朝陽より相続。朝陽門。
5	岱美	定雅門。九起との句草に「俳仙堂」「寺町高辻上ルいせ町隠居」とする。
6	蔦山	定雅門。

#### (2) 『花供養』の翻刻並びに俳人索引、全国入集状況などのまとめと考察

『花供養』全五四冊、校異を各冊に付き二、三冊行い、これを歴代の活動ごとにまとめ、次の五期にわけて発表する。また、立命館大学アート・リサーチセンターの俳諧資料サイトと連携し、画像と翻刻とが同時に閲覧できるシステムに移行する考えである。

『花供養』翻刻集成 蘭更の時代 天明六年～寛政十

『花供養』翻刻集成Ⅱ一蒼キュウの時代(1) 寛政十一年～文化十三年

『花供養』翻刻集成Ⅲ一蒼キュウ(2) 千漕 朝陽の時代 文政十一年～天保十一年

『花供養』翻刻集成 九起の時代 天保十二年～嘉永三年

『花供養』翻刻集成 公成 良大の時代 嘉永六年～明治三年

#### (3) 芭蕉顕彰俳諧資料の周辺資料の収集と解説

石清水八幡宮『八幡八景』を読む

### 4. 研究成果

研究期間中の成果は次のとおりにまとめて考察し、発表し、WEB公開している。

#### (1) 近世後期京都俳壇における芭蕉顕彰俳諧資料のまとめと考察

『落柿舎 義仲寺 井上重厚年譜 発句稿』

私家版印刷、全162頁、2024年2月発行

「重厚と奥羽行」、京都俳文学研究会「俳文学研究」80号、全2頁、2023年10月発行

「重厚の奥羽行」、龍谷大学国文学会「國文學論叢」69号、全16頁、2024年2月発行

『淀藩士連中と芭蕉顕彰俳諧考 畑吟風俳諧資料と京俳壇』

私家版印刷、全136頁、2022年2月発行

重厚や淀藩士の俳諧活動の考察からは、芭蕉の偶像化が進んでいる状況が窺われた。その一つに芭蕉の神格化がある。それは以下の状況であるが、重厚は芭蕉を神として神社に祀ったが、最も早い時期の一つである。芭蕉に神号が贈られるのは、次の通りである。

○ 寛政五年 芭蕉百回忌に、神祇白川家から「桃青霊神」の神号が贈られる。なお、同年、二条家から「正風宗師」が追号されている。

○ 文化三年 朝廷から「飛音明神」の神号が贈られる。(明治書院『俳句講座』1、市橋鐸「天保俳諧史」)。この神号の出どころは明確にしないが、芭蕉句「古池や蛙飛び込む水の音」によるものである。同句は、近世後期に様々な影響を与えた芭蕉顕彰俳諧の象徴的な句の一つであり、この句に因む神号は偶像化された芭蕉を象徴している。

○ 天保一四年 芭蕉百五十回忌に、二条家の幹旋で神祇官領家の吉田家から「花本大明神」の神号が贈られる。なお、二条家には、二条家俳諧宗匠と花の本宗匠の称号がある。

このうち寛政五年の芭蕉百回忌の頃、重厚は次のように、筑紫高良山社内内の「芭蕉霊神社碑の銘」を記す。

「筑紫高羅山社内芭蕉霊神の社碑銘

歌は出雲八重垣 連歌は新破理都久波 俳諧は筑紫の高良山に芭蕉霊神ましまして風雅の実を聞給ふ

寛政 百回忌の日 粟津野の重厚謹誌(文化四年十一月十四日奥、南吟著「黄昏随筆」)。

なお、高良山には、寛政五年百回忌建立の後、天保二年建立の翁社がある(石に刻まれた芭蕉)。

#### (2) 『花供養』の翻刻並びに俳人索引、全国入集状況などのまとめと考察

『「花供養」翻刻集成 蘭更の時代 天明六年～寛政十年』

私家版印刷、全133頁、2021年2月発行

『「花供養」翻刻集成Ⅱ一蒼キュウの時代(1) 寛政十一年～文化十三年』

私家版印刷、全128頁、2023年1月発行

『「花供養」の入集者獲得』、京都俳文学研究会「俳文学研究」79号、全2頁、2023

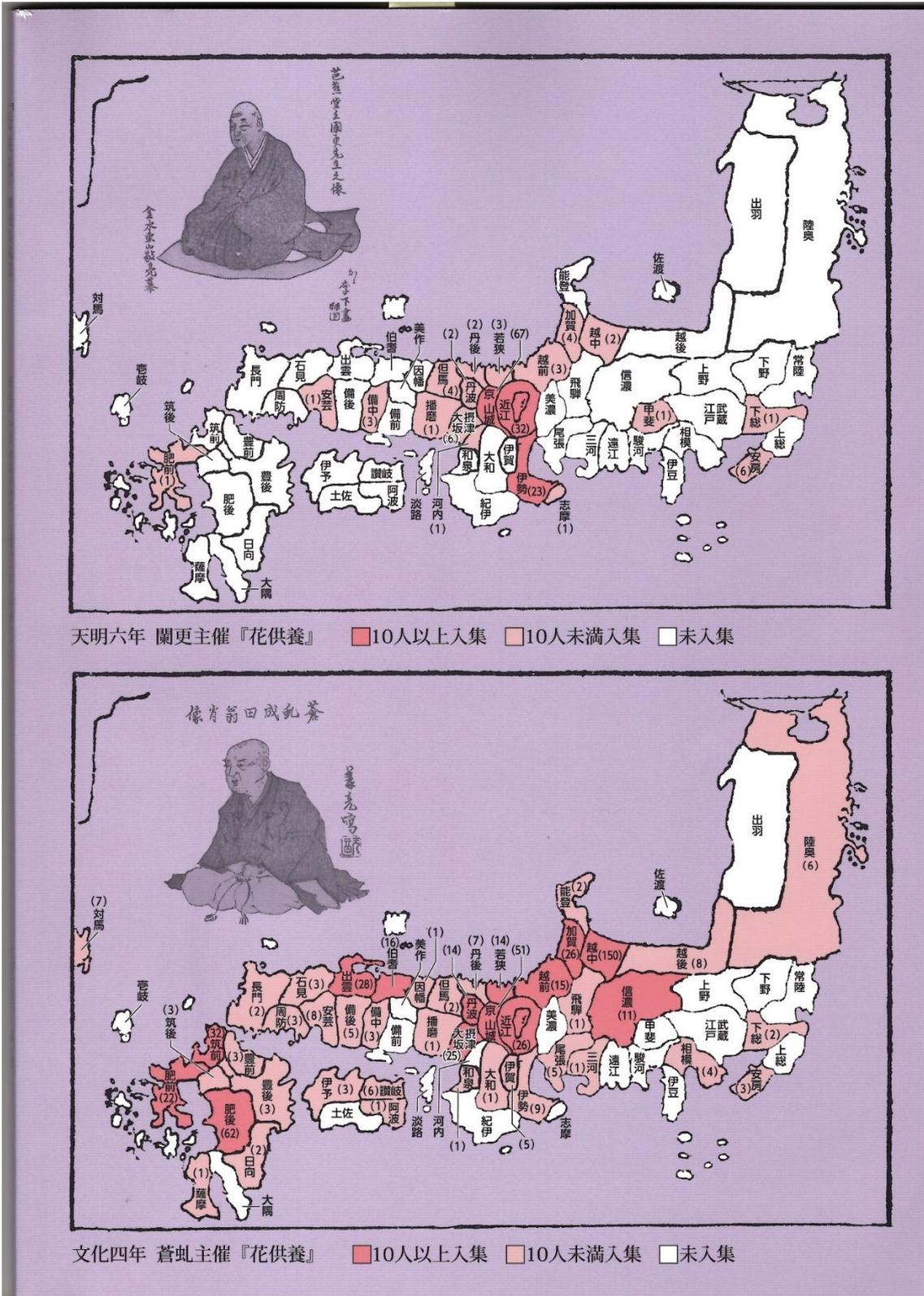
年 3 月発行

『「花供養」翻刻集成Ⅲ—蒼キュウ(2) 千涯 朝陽の時代 文政十一年～天保十一年』

私家版印刷、全 104 頁、2024 年 1 月発行

『「花供養」の動乱期』、京都俳文学研究会「俳文学研究」81 号、全 2 頁、2024 年 3 月発行

『花供養』の全国入集状況を視覚化する取組みとして、俳人分布地図を作成した。これは最初の試みであり、継続的に作成を行っているが、今後に課題として残っている。因みに、芭蕉百五十回忌の『花供養』は百九丁に及び、累計的にみると全国を網羅するに至る。五人の堂主の連携が結実し、更なる展開を見せるのである。次に初世堂主の關更と二世堂主の蒼キュウの入集状況を反映した俳人分布地図を示す。近畿圏 西国・九州 東武・東北へと広がっていく様子が実証された。



(3) 芭蕉頭彰俳諧資料の周辺資料の解説

石清水八幡宮『八幡八景』を読む

竹内千代子・小西 亘・土井 三郎共著、私家版印刷、全 126 頁、2023 年 3 月発行

以上の成果のうち、私家版印刷物 については、立命館大学アート・リサーチセンター 文部科学省 国際共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ国際共同研究拠点」共同研究課題「花供養と芭蕉頭彰俳諧の研究」(代表:竹内千代子)WEB に公開している。以下のとおりである。

<https://www.arc.ritsumeikan.ac.jp/archive01/theater/html/hanakuyo/index.html>

## 『花供養』画像・翻刻閲覧サイト

○ご利用にあたって

このデータベースは、立命館大学アート・リサーチセンター櫻井文庫及び舞鶴市糸井文庫に所蔵されている『花供養』の画像・翻刻データを閲覧できるようにしたものです。  
アート・リサーチセンターの所蔵品については、個人利用・研究利用に限り、営利目的での利用については、かならずアート・リサーチセンター事務局までご連絡ください。

[閲覧はこちらから](#)

[翻刻凡例](#)

[図録「花供養と京都の芭蕉」の閲覧](#)

[『芭蕉堂門人録—影印と翻刻—』の閲覧](#)

[「堀泰夫句稿『泰夫草』翻刻と南山城の俳諧」の閲覧](#)

[『野風呂記念館本『古果発句集』影印 翻刻と解題 一付 西尾市岩瀬文庫本『古果発句集』校異—』の閲覧](#)

[『渡辺去何編『古果俳諧集』 影印と翻刻』の閲覧](#)

[『近世後期京都の芭蕉頭彰俳諧資料 芭蕉堂歴世の俳諧と花供養』の閲覧](#)

[『『花供養』翻刻集成Ⅰ—關東の時代 天明六年～寛政十年—』の閲覧](#)

[『淀藩士連中と芭蕉頭彰俳諧考—畑吟風俳諧資料と京俳壇—』の閲覧](#)

[『『花供養』翻刻集成Ⅱ—蒼虬の時代\(1\) 寛政十一年～文化十三年—』の閲覧](#)

[『石清水八幡宮『八幡八景』を読む』の閲覧](#)

[『『花供養』翻刻集成Ⅲ—蒼虬\(2\) 千原朝陽の時代 文政十一年～天保十一年—』の閲覧](#)

[『落柿舎義仲寺 井上重厚年譜発句稿』の閲覧](#)

立命館大学アート・リサーチセンター

Copyright (c) 2010— Art Research center, Ritsumeikan University All Rights Reserved.

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 竹内千代子	4. 巻 69
2. 論文標題 重厚の奥羽行	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 龍谷大学国文学会「国文学論叢」	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹内千代子	4. 巻 79
2. 論文標題 『花供養』の入集者獲得	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 京都俳文学研究会会誌「俳文学研究」	6. 最初と最後の頁 5-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹内千代子	4. 巻 76
2. 論文標題 淀藩士吟風と田川鳳朗	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 俳文学研究	6. 最初と最後の頁 5-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹内千代子	4. 巻 77
2. 論文標題 『芭蕉門古人真蹟』収載の仏頂真蹟	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 俳文学研究	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹内千代子	4. 巻 第75号
2. 論文標題 几重『井華集』夏・秋 輪講	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 京都俳文学研究会会誌「俳文学研究」	6. 最初と最後の頁 8-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計6件

1. 著者名 竹内千代子	4. 発行年 2024年
2. 出版社 私家版	5. 総ページ数 104
3. 書名 『花供養』翻刻集成 蒼キユウ（2） 千涯 朝陽の時代 文政十一年～天保十一年～	

1. 著者名 竹内千代子	4. 発行年 2024年
2. 出版社 私家版	5. 総ページ数 162
3. 書名 落柿舎 義仲寺 井上重厚年譜 発句稿	

1. 著者名 竹内千代子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 私家版	5. 総ページ数 128
3. 書名 『花供養』翻刻集成 蒼キユウの時代 寛政十一年～文化十三年	

1. 著者名 竹内千代子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 私家版	5. 総ページ数 127
3. 書名 石清水八幡宮『八幡八景』を読む	

1. 著者名 竹内千代子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 私家版	5. 総ページ数 136
3. 書名 淀藩士連中と芭蕉顕彰俳諧考 畑吟風俳諧資料と京俳壇	

1. 著者名 竹内千代子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 私家版	5. 総ページ数 133
3. 書名 『花供養』翻刻集成 蘭更の時代 天明六年～寛政十年	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------